

修士論文要旨

学籍番号：21GH205 第号

氏名 白 健裕

人文社会科学専攻（コース：現代共生）

論文題目

中国における異なる世代のムスリム女性の恋愛観・結婚観 -雲南省の回族を例として

女性の恋愛観・結婚観は個人によって大きく異なるものであるが、国の政策や経済状況、教育レベルなどの様々な要因により影響を受け、時代の発展とともに変化してゆくものでもある。中国においては、回族はイスラム教を信仰する少数民族の一つとして、イスラム教教義を守るとともに、中国社会の法や規範にも大きく左右される。そのため、回族女性たちは中国の長い歴史の発展や伝統的な儒教思想などを通じて、イスラム世界の女性たちの恋愛観・結婚観とも、中国の伝統的な女性の恋愛観・結婚観とも異なる観念を構築してきた。本論文では、そのような回族女性の恋愛観・結婚観について、特に「改革・開放」の前後に生まれた異なる世代の回族女性たちの恋愛観・結婚観の違いと変化を明らかにすることを試みる。そして、都市における回族たちの伝統的な生活環境が変化した後、「回漢通婚」に対する観念はどのような影響があったについて考察する。最後に、異なる世代の雲南省の回族女性たちは配偶者を選ぶ基準、恋愛・結婚する原因と「回漢通婚」に対する考え方という三つの方面の違いと変化の原因について分析する。

第一章では、中国における回族の基本状況を紹介した。第一節では回族の歴史について述べた。彼らは、唐の時代以降イスラム教徒として中国に到来し、元代から明代にかけて回族という民族集団を形成した。清代になると、回族の社会的な地位は低くなり、清朝の末期には中国各地で相次いで回民蜂起が発生したが、中華民国期には「五族共和」という理念が提示され、中華人民共和国建国後には、少数民族に対する民族地域自治と「民族平等、民族団結、各民族は共に繁栄」と言う政策が規定された。婚姻慣行については、中国の回族の伝統的な結婚に関する手続きや儀礼を整理し、縁談の申し出、婚約、結婚式、披露宴、花嫁の里帰りという一連の過程を経て行われることを示した。

第二章では、2022年度に実施したインタビューの結果を基礎として、雲南省における二つ世代の回族女性たちが配偶者を選ぶ基準、恋愛・結婚する理由の二つの要素について比較し、分析した。その分析の結果、40～50代の回族女性と比べると20～30代の回族女性は配偶者を選ぶ時に最も重視することは相手の人柄と相手に対する第一印象であること、恋愛・結婚相手の紹介者は家族から同世代の知り合いになったということ、恋愛という過程の持続時間が長くなったこと、相手と付き合う目的に大きな違いが見られること、親世代の雲南省回族女性たちの結婚理由と比べると若い世代の回族女性たちが恋愛・結婚を決める理由はより自分の意思に従っていること、の五つの違い、変化が明らかとなった。

第三章では、まずエジプトを例として、イスラム世界の異宗婚を紹介した後、回族の族内婚から「回漢通婚」へと移行した歴史的背景を確認した。そして、40～50代の回族女性たちの周りの「回漢通婚」の例と20～30代の回族女性たちは「回漢通婚」に対する考え方を考察し、20～30代の若い回族女性たちが恋愛・結婚相手を探す時には、40～50代の回族女性が相手に対して「信教一致」を要求する時よりも、相手が自分の生活習慣や飲食習慣に対する尊重してくれるかどうかを重視しているという違いが挙げられ、これが「回漢通婚」と関連していると推定した。

第四章では、第二章と第三章の分析を踏まえつつ、異なる世代の雲南省回族女性たちの恋愛観・結婚観の違いについて、その変化の原因について分析した。そこでは主に国家政策、経済要素、メディア発展、教育背景、家庭背景、周りの考え方という六つの側面から、具体的な原因について考察し、これらの要因が相互に関係する中で、恋愛観・結婚観の変化が生じたことを論じた。